様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：１６４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０４４４６

研究課題名（和文）「小学校・中学校・高等学校の共通教材（古文）」の段階的・系統的な指導に関する研究

研究課題名（英文）Study on the method of instructing step-by-step systematic guidance on "ancient texts common to textbooks of elementary school, junior high school, high school"

研究代表者
吉田　茂樹（YOSHIDA, SHIGEKI）

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・准教授

研究者番号：２０７３７８３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、小学校・中学校で全教科書に採用され、重複教材となっている「春はあけぼの」の小学校・中学校における授業改善を目的としている。本実践では、「春はあけぼの」で使われている文章構造を使って、「わたしの『春はあけぼの』」を書く活動を展開する。これらの活動により、「清少納言のものの見方や考え方」の観点を実感的に理解していく方法を試行する。

研究成果の概要（英文）：　This study aims for elementary school and junior high school class improvement of “Haru-wa, Akebono/In Spring, the Dawn (Makura no Soushi/The Pillow Book” which has been adopted in all the textbooks for elementary and junior high school and has become an overlapping teaching material.In this practice, we used the sentence structure in “In Spring, the Dawn” and developed an activity to write “My‘ ’Haru-wa, Akebono/In Spring, the Dawn’”. Based on these activities, we attempt to realistically comprehend the perspective of the “thoughts and views of Sei Shonagon”.

研究分野：国語科教育

キーワード：古文の共通教材　段階的・系統的な指導

１．研究開始当初の背景

(1) 小学校・中学校・高等学校の教科書に重複する共通教材の出現

従前から、中学校と高等学校とで使用される教科書の古典領域に、同一作品の同一部分が重複して採録されていることは問題視されていた。平成 20 年に改訂された「小学校・中学校学習指導要領」、及び平成 21 年に改訂された「高等学校学習指導要領」において、〔伝統的な言語文化に関する事項〕が新設された。我が国の言語文化に親しむ態度を育てることを重視する姿勢が反映されたものである。この改訂によって、小学校から〔伝統的な言語文化〕としての古典を学ぶことになった。小学校の教科書には〔伝統的な言語文化〕の教材として、これまで中学校と高等学校との教科書においてすでに重複していた、「枕草子」「竹取物語」「平家物語」「おくのほそ道」などの同一作品の同一部分が、さらに重複して採録される状況となった。これによって、小学校・中学校・高等学校の教科書に同一作品の同一部分が「古文の共通教材」として重複して採録される状況が出現した。

(2) 共通教材を何度も同じ方法（言語活動）で学習させる授業の出現

現行の教科書では、同一作品の同一部分を小学校・中学校・高等学校において何度も繰り返し学習させる構造となっている。小学校・中学校・高等学校それぞれの学習指導要領には、発達段階に合わせた指導の内容と方法例（言語活動例）は提示されているが、実際に授業をどのように展開するかは、現場の教師の裁量に任されている。現場の教師は自分が所属する校種以外で、どのような指導が行われているのかをほとんど知らないので、小学校・中学校・高等学校における縦の発達段階を意識した授業を構築することが難しい。これによって、たとえば「枕草子」第一段（春はあけぼの）を扱う際は、小学校・中学校・高等学校のいずれの校種でも、「平成版『枕草子』を創作しよう」といった単元名で、「春は……」と書き換えさせるような、「同一作品の同一部分を何度も繰り返し同一の方法で学習させる」形態の授業が出現した。

２．研究の目的

研究の最終目的は、小学校・中学校・高等学校の発達段階をふまえた「伝統的な言語文化の段階的・系統的な指導カリキュラム」を開発することにある。本研究ではその第一段階として、小学校・中学校・高等学校の教科書に重複して採録されている、いわゆる「古文の共通教材（枕草子「春はあけぼの」）」を取り上げて、それぞれの発達段階において、どのような指導原理のもとに、どのような指導方法により、段階的・系統的に授業を展開すればよいのかを、検証授業を通して明らかにする。指導する際に、各校種の授業で活用できる具体的な授業モデルを作成し、刊行物（論文）などにより学校現場に発信する。

３．研究の方法

平成 29 年度時点で、小学校・中学校の教科書会社 5 社は、全社とも「春はあけぼの」を両校種の教科書に採用している。このため、中学校においては、学習者全員が 2 回目の学習として「春はあけぼの」に取り組むことが前提となる。ここでは、「春はあけぼの」を小学校・中学校の接続を視野に入れて段階的に指導する方法を、高知大学教育学部附属小学校、同中学校と協働して開発・実践した成果を提案する。高等学校の授業に関しては今後の課題としたい。

(1)高知大学教育学部附属小学校での取組

まず、小学校における「春はあけぼの」における学習指導の課題を以下の 3 点と設定した。

ア．音読や暗唱に終始し、読みに機能しない指導が行われている。

イ．「昔の人のものの見方や感じ方」を知ることに繋がらない、書くこと（創作）を中心とした指導が行われている。

ウ．「昔の人のものの見方や感じ方」の内実が明確ではない指導が行われている。

これらの課題解決の方策として、以下の 3 点を示した。

ア．音読や暗唱を内容や表現形式を理解するための方法として積極的に活用する。

イ．本文の「さらなり」「言ふべきにあらず」「言うべきにもあらず」などのキーワードによって、「(1)みんながいいと考えるもの」と「(2)作者が『これもいい』と思うもの」を識別し、「昔の人のものの見方や感じ方」の内実を把握する。

ウ．書くために必要な表現の工夫や効果を「春はあけぼの」(『枕草子』) から読み取り、書き手である清少納言のものの見方や感じ方の観点を理解できるように「私の『春はあけぼの』」を書く活動を設定する。

(2)高知大学教育学部附属中学校での取組

まず、中学校における「春はあけぼの」における学習指導の課題を以下の 3 点を設定した。

ア．音読や暗唱に終始し、読みに機能しない指導が行われている。

イ．「昔の人のものの見方や感じ方」を知ることに繋がらない、書き換え（創作）を中心とした指導が行われている。

ウ．内実が明確化されないままに「春はあけぼの」の「昔の人のものの見方や感じ方」の指導が行われている。

これらの課題解決の方策として、以下の 3 点を示した。

ア．音読や暗唱を内容や表現形式を理解するための方法として積極的に活用する。

イ．『古今和歌集』の四季部における典型的景物と「春はあけぼの」を比較し、「清少納言の表現の工夫①」（当たり前のもとはあえて取り上げない」ことを発見させる。また、武久康高による本文の「さらなり」「言ふべきにあらず」「言うべきにもあらず」などの

キーワードによって、「(1)みんながいいと考えるもの」（伝統的な美意識）と「(2)作者が『これもいい』と思うもの」（清少納言の美意識）が識別され、清少納言独自の美意識が強調されていることを「清少納言の表現の工夫②」（一般的に好まれないものを評価する）に気づかせることで、「昔の人のものの見方や感じ方」の内実を把握させる。
ウ．書くために必要な表現の工夫や効果を「春はあけぼの」（『枕草子』）から読み取り、書き手である清少納言のものの見方や感じ方の観点を理解し、清少納言に擬似的になったつもりで、「つめたきもの」「おそろしきもの」「泣けるもの」をグループで一題選択し、グループで一文ずつ書いてつなぎ合わせてグループ作品を製作する。

４．研究成果
(1)附属小学校における授業の成果
授業対象は、第 5 学年Ａ組 33 名（男子 17 人　女子 16 人）、時数は 4 時間。単元名は、「わたしの『春はあけぼの』を書こう」である。単元目標は「『春はあけぼの』で使われている表現の効果を使って，自分なりに書き換える活動を通して，清少納言のものの見方や感じ方の観点を理解することができる。」と設定した。
(ア)音読・暗唱
全時間をとおして音読・暗唱を実施した。キーワードを空欄にした「穴あき音読シート」を音読をさせることによってキーワードに自然に着目させ、「春はあけぼの」の表現構造の理解に繋げたと考える。
(イ)「昔の人のものの見方や感じ方」の内実把握
読み取るべき表現の工夫や効果を明らかにした。授業は、暗唱練習、古語理解の後、文章の構成（四季、各季節＋時間帯＋景色・様子）の理解を指導した。
その上で、児童にも分かりやすく、「さらなり」・「なほ」・「また」のキーワードに着目させることによって、夏型（「(1)みんながいい」＋「(2)作者がいい」）発見の指導を行った。続いて、春、秋、冬における表現構造の理解の指導を行った。これらは、夏型を応用した指導である。学習者は、夏型の表現構造を驚きを持って発見し、その尺度を応用することに高い興味と関心、意欲をもって、春・秋・冬の表現の型を理解していったものと推察される。この方法は、表現に着目することによって、伝統性と非伝統性にかかわる、筆者清少納言のものの見方・感じ方・考え方をとらえることに有効に働いていると考える。これまでの小学校における授業事例にはなかった方法である。「春はあけぼの」の授業実践史を切り拓く試みであると考える。
また、表現構造の型を理解させるとともに、表現意図をとらえる学習指導も行った。児童からは、「作者が自分が言いたいことをアピールするため」、「読み手を飽きさせないため」などの意見が出た。
(ウ)内実理解のための学習者の表現活動
児童なりの「⑴みんながいい」と「⑵自分の『これもいい』」の基準があいまいだったため，「春はあけぼの」の構造とは矛盾した作品も現出してしまった点があった。しかし、児童は、これまでの学びを生かして、楽しみながら、創作意欲をもって作品を制作していた。また、ものの見方に関して新しい視点をもつことができたと考えられる。さらに，作者である清少納言のものの見方に触れ、平安時代の人々の暮らしを想像し、現代と違う面や似ている面にも気づくことができたと考えられる。
(1)附属中学校における授業の成果
授業対象は第 2 学年Ｃ組 34 名（男子 17 人女子 17 人）、時数は 4 時間。単元名は「清少納言の人物像を想像しよう」である。単元目標は「『春はあけぼの』で使われている表現の仕方から清少納言の人物像を自分なりに想像する活動を通して、作者である清少納言のものの見方や考え方の観点を理解する。」と設定した。
（ア）音読・暗唱による内容理解
キーワードを抜いた「音読シート」を利用して、音読・暗唱を全時間実施した。キーワードを空欄に書き入れ、音読・暗唱することによってキーワードに自然に着目させ、「春はあけぼの」の表現構造の理解に繋げることができたと考えられる。
（イ）（ウ）「昔の人のものの見方や感じ方」の内実把握
『古今和歌集』の伝統的景物と「春はあけぼの」の比較、「(1)みんながいいと考えるもの」（伝統的な美意識）と「(2)作者が『これもいい』と思うもの」（清少納言の美意識）に基づく表現構造の理解によって、「春はあけぼの」における「清少納言の表現の工夫①②」のおおよそが理解できたと考える。これによって、清少納言のものの見方や考え方の特徴を、『古今和歌集』の規範的な自然観や美意識を踏まえながら、自らが感じ、発見した美を織り込んだ独自の表現を提示したものであることに気づいたと推察される。これは従来の授業には見られなかった新たな試みである。また、この授業には、「春はあけぼの」を対象とする文学研究の成果を取り入れている点が特徴的であると捉えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）
①吉田茂樹、武久康高、渡邊春美、今村有紀(2018) 「中学校における「春はあけぼの（枕草子）」の授業改善」『高知大学教育学部研究報告書』第 78 号：37-57、査読無
②吉田茂樹、武久康高、渡邊春美、大坪顕彦(2018) 「小学校における「春はあけぼの（枕

草子)」の授業改善」『高知大学教育学部研究報告書』第 78 号：59-88、査読無
③吉田茂樹(2018) 「小学校・中学校における「春はあけぼの」の段階的な学習指導―指導する目標・内容の段階的な設定を中心に―」『九州国語教育学会紀要』第 7 号:108-121、査読有
④吉田茂樹(2017) 「「春はあけぼの」の授業改革－小中の接続を視野に入れて－」『月刊国語教育研究』通巻 545 集（第 52 巻）,日本国語教育学会：42-49,「研究」、査読無
⑤吉田茂樹(2017)「「春はあけぼの」における「清少納言のものの見方や感じ方」のとらえ方ー歴史性を取り入れて相対的に読む工夫を取り入れてー」『九州国語教育学会紀要』第 6 号，九州国語教育学会：184-194、査読有
⑥吉田茂樹(2016) 「学部の教員養成課程における実践的な授業力の育成－国語科において授業をメタ化する取り組みを中心に－」『語文と教育』第 30 号，鳴門教育大学国語教育学会：105-115、査読有
⑦吉田茂樹(2016)「戦後の古典教育を方向づけた時代的な要請－中学校学習指導要領と時代的な背景との対照を通して－」『高知大学教育学部研究報告』第 76 号，高知大学教育学部：1‐17、査読無
⑧吉田茂樹(2016)「小中高で重複する共通教材の段階的・系統的な学習指導の開発－〔伝統的な言語文化（古文)〕を中心にー」『月刊国語教育研究』No.513,日本国語教育学会：36-37,「国語教育展望」、査読無

〔学会発表〕（計２件）
①吉田茂樹(2017) 「小学校・中学校の接続を視野に入れた「春はあけぼの」の授業改革」第 32 回鳴門教育大学国語教育学会
②吉田茂樹(2015) 「学部の教員養成課程における実践的な指導力の育成」第 30 回鳴門教育大学国語教育学会

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
吉田　茂樹（YOSHIDA,Shigeki）
高知大学・教育研究部人文社会学系教育部門・准教授
研究者番号：７０４６１３０８

(2)研究分担者
武久康高（TAKEHISA,Yasutaka）
高知大学・教育研究部人文社会学系教育部門・准教授
研究者番号：２０７３７８３７

渡邊春美（WATANABE,Harumi）
高知大学名誉教授
研究者番号：１０３２０５１６

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
大坪顕彦（OOTUBO,Akihiko）
今村有紀（IMAMURA,Yuki）